

# エジプトを掘る それをめぐる様々な学問分野

組織委員会挨拶	10
文部省挨拶	11

## Aセッション 基調講演

エジプトにおける発掘調査の歴史	吉村 作治	16
はじめに / なぜ、エジプトの研究か / エジプト研究の黎明期		
エジプト調査の開始期 / 彩色階段の検出 / 「魚の丘」の復原		
ワセダハウスの建設 / マルカタ王宮の再調査 / ピラミッド内部の調査		
アメンヘテブ 世の墳墓の保存修復 / アブ・シール南地区での探索		
人工衛星を使つての遺跡探索		

## Bセッション 遺跡と環境の変遷

古生物からみた遺跡と環境	森 啓	30
はじめに / アブ・シール地域の地質 / アブ・シール地域の化石層序		
遺跡建造物を構成する石灰岩とその産地 / アブ・シール南丘陵遺跡の岩石にみられる微化石		
中部始新統カイロ相の石灰岩 / アブ・シール南丘陵遺跡現地の石灰岩の特徴		
旧石器時代の遺跡と環境	高橋龍三郎	39
エジプトにおける旧石器遺跡の分布 / 旧石器遺跡の分布の特徴		
ルクソール周辺の旧石器遺跡 / ルクソール周辺の旧石器の特徴		
石器製作の石材採掘 / 石材の採掘坑 / ナズレット・カーター遺跡の石材採掘坑		
アフリカ大陸の気候決定要因 / 旧石器時代のエジプト地区の気候復元		
旧石器時代の環境復元		
新王国時代の遺跡と環境	近藤 二郎	50
はじめに / 古都テーベ / 古代テーベのアメン大神殿 / ナイル川西岸地域はテーベの墓域		
新王国時代のメンフィス / アブ・シール南丘陵遺跡の位置		
メンフィス地域の古環境 / 新王国時代の遺跡の立地と環境		
王朝末期の遺跡と環境	長谷川 奏	61
遺跡をとりまく環境へのまなざし / 水辺で取り結ばれた神々の世界		
ナイルと運河が取り結ぶ広域ネットワーク / 環境の劇的変貌と遺跡の景観		

## Cセッション 建築からみた遺跡

石でつくった建物	柏木 裕之	72
はじめに / 歴史家カエムワセト / カエムワセトの石造建造物		
古い様式への注視 / 柱材の調達 / 柱のつくり方 / 結びにかえて		
日乾煉瓦でつくった建物	西本 真一	82
はじめに / アブ・シール南丘陵遺跡の概観 / 日乾煉瓦建築の特徴		
日乾煉瓦のつくり方 / アブ・シールの小型建築の特徴		
大型の日乾煉瓦建造物の特徴 / おわりに		
遺跡をどうみるか	中川 武	90
遺跡の意味を探る / 古代エジプトにおける建築物の意味		
マルカタ王宮 / ピラミッド / ピラミッドと都市の空間配置		
ピラミッドのもつ意味と歴史の変遷 / アブ・シールの位置の意味づけ / おわりに		

# 目次

## Dセッション 考古学からみた遺跡

- 碑文をどう読むか……………菊地 敬夫 100  
ヒエログリフとヒエラティック / アブ・シール南丘陵頂部遺跡の文字資料  
テキストをより豊かに読むために
- 図像をどうみるか……………宮いづみ 108  
壁面を飾る図像の意味 / 図像から建物の性格を読む  
カエムワセトによる石造建造物の概要 / 壁画の修復作業 / 図像にみるカエムワセト  
図像の復原と装飾場所 / 図像の復原と建物の性格解明
- 新王国時代の遺物を考える……………齋藤 正憲 118  
第18王朝の王の建物址 / 彩画片というパズル / 有翼獣のモチーフ  
ファイアンス・タイルを用いた装飾 / 最高の彩文土器 / 丘の上のトトメス 世
- 王朝末期の遺物を考える……………白井 則行 126  
はじめに / 考古学者は遺物から何を明らかにするのか  
この遺物はいつつくられたのか - 年代の決定 - / この遺物は何に使われたのか - 用途の特定 -  
これらの遺物はどのような活動の痕跡なのか - 遺物から人間活動を推測する - / おわりに

## Eセッション 科学技術の応用

- 宇宙からみた遺跡……………坂田 俊文 134  
宇宙からみる地球 / 地球観測の方法 / 電波で地球を観察する / 沙漠に古代都市がみえる  
人工衛星で遺跡を見つける / エジプトでのピラミッド発見と古気候 / おわりに
- X線で遺跡を鑑る……………谷口 一雄 142  
はじめに / 可搬型X線装置の必要性 / X線の性質  
文化財・考古学研究における分析手法 / 可搬型蛍光X線分析装置  
可搬型X線回折装置 / 壁画などの顔料のX線分析
- 分析された古代の色……………宇田 応之 152  
はじめに / 古代エジプトの顔料 / なぜ、色がでるのか  
予備調査でのデータの蓄積 / 分析対象と分析された色  
ハンタイトを利用して古代交易ルートを探る
- 光で遺跡を測る……………内田 賢二 160  
GPS( Global Positioning System )の利用 / トータルステーションと数値平板測量  
GIS( Geographic Information System ) / 発掘調査への応用

## Fセッション パネルディスカッション第1部・エジプトを掘る

- エジプトを掘る……………吉村 作治 168
- 「魚の丘」遺跡発見の頃……………菊池 徹夫 169  
エジプトの発掘調査とのかかわり / 「魚の丘」の発見 / 魚の丘の彩壁画の発掘と保存  
ローマ時代の井戸址の検出 / カーターハウスの思い出
- アメンヘテブ 世の王墓の再調査……………近藤 二郎 174  
アメンヘテブ 世の王墓の発掘史 / アメンヘテブ 世墓からの出土品  
王墓の復原・修復にあたって

アブ・シール南遺跡の発掘に参加して	宮いづみ	178
アブ・シール南遺跡の特徴 / アブ・シール遺跡の発掘風景 発掘スタッフと発掘風景		

最先端の科学技術による遺跡探索	長谷川 奏	183
伝統的なエジプト学研究の場への応用 / ダハシュール地域で発掘調査が始まる 墳墓を建造した人物は誰か / 墳墓が利用された年代の推定		

エジプトにおける旧石器時代遺跡	長 潤一	187
エジプト調査への参加の動機 / 中期旧石器時代の気候環境 なぜ、石器は丘陵の頂部に存在するのか		

エジプトとのかかわり	中川 武	190
ピラミッドにおける内部空間の意味 / ピラミッドの保存と修復 エジプトは閉じられた永続的な文化		

質疑応答		197
エジプトで何を感じ、何を学んだか / エジプト考古学の楽しさ 相手の文化を認識した対応を / まとめ		

### Gセッション パネルディスカッション第2部・周辺からみたエジプト文明

周辺からみたエジプト文明	吉村 作治	202
現地主義と文献主義		

メソポタミア文明からみたエジプト文明	松本 健	203
メソポタミア文明の特徴 / エジプトにおけるメソポタミア文明の影響 円筒印章の発祥はメソポタミア / ジググラトにみるメソポタミアの影響		

メソポタミアからみたエジプト	小泉 龍人	208
メソポタミアにおける技術史の変遷 / 資源利用からみた時代区分 家畜の変遷 / 武器の変遷と都市形成 / メソポタミアとエジプトの交易		

ギリシアからみたエジプト	周藤 芳幸	214
ギリシア文化の特徴 / 開かれた世界ギリシア / ギリシアとエジプトの交流 ギリシアとエジプトの違い / ヘレニズム時代の特殊性		

ギリシア・ローマからエジプトをみる	川西 宏幸	221
プトレマイオス朝後のアコリス / キリスト教の普及とアコリス イスラムの普及とアコリス		

質疑応答		224
なぜ、メソポタミアか / インダス文明から西へ西へ / ギリシアは第2の故郷 仕事でエジプトへ / 親学問を身につけ実地調査を / 絵文字から楔形文字へ メソポタミアにおける銅製品の出現 / ギリシア人の帰属意識 現在のアコリスの社会情勢 / おわりに		

用語解説・古代エジプト史略年表		230
-----------------	--	-----

演者紹介		242
------	--	-----

# エジプトにおける発掘調査の歴史

吉村 作治

早稲田大学人間科学部教授

## はじめに

最初に、本シンポジウムの企画の意図について紹介することにします。私たちがエジプトで調査をしようと考えてから今年で35年目を迎えています。この間、文部省から多くの科学研究費補助金をいただけてきました。これまで私の自前での報告会やシンポジウムを開催してきましたが、公的資金を使わせていただいて得た成果は公的資金で報告しなければと考えて「大学と科学」公開シンポジウムに応募してみました。3、4回は申請が必要だろうと思っていましたが、幸運にも1回で採択されました。「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会の先生方に認めていただけたことはうれしいことです。また、来年4月から、私たちのエジプト調査室が研究所に昇格するため、本シンポジウムがエジプト調査室として行う最後の発表会になります。1965年から続けてきた研究のひとつのまとめとして、このような機会を与えてくださいました組織委員会と文部省、国民の皆さま方に深く御礼申し上げます。

21世紀の考古学においては、修復や保存学、保存科学、傷つけないようなかたちでの探査が重要になると思います。その方向に向けて、

20世紀の考古学のまとめや反省、今後の展望を、本シンポジウムでご理解していただければ幸いです。

## なぜ、エジプトの研究か

「なぜ日本人がエジプトで発掘をするのか」と、よく聞かれます。学問は本質的には自由なものです。理屈が通らなければやってはいけないというものではありません。やりたいからやるというのが根本ですが、そこには理論的な背景があります。質問される方は、日本人であれば日本の文化や文明、歴史などを解明するのが当たり前なのに、なぜ日本を研究しないのかと疑問をもたれているのだと思います。しかし、「井のなかの蛙大海を知らず」という言葉があるように、日本だけをみていたのでは日本はわかりません。例えば、私たちはエジプトについて研究していますが、エジプトだけを対象にしたのではエジプトのことは理解できません。そのため、本シンポジウムでもエジプト周辺を研究されている方々にご発表いただいたり、エジプトとのかかわりや文明の本質、文化のなかに含まれている諸要素などをお聞かせいただくことになっています。本シンポジウムにお集まりの方の多くはエジプトが好きだと思いますが、エジブ

トを知るにはエジプトだけではだめであるということをお伝えしたいと思います。

私は、日本の文化・文明に興味をもっており、最終的には日本をどう考えるかを外国からみるようにしたいと考えています。しかし、外国はあまりに広すぎて、私の能力だけではカバーしきれません。そこで、一番好きなエジプトから日本をみていこうと考えてエジプトでの研究を始めたわけです。

### エジプト研究の黎明期

本来ならば、壇上にたっているのは川村喜一先生で、私は川村先生の代理という気持ちです。私は日本にエジプトを定着させ、広めようと考えていました。それには早稲田大学から始めようということで、オリент考古学を研究されていた川村先生に無理を申し上げて、先生の講座をオリент・エジプト考古学に広げていただきました。これがスタートでした。

まず、私たちがエジプトで調査・研究できるか、研究する意義はあるのかを考えました。あまりにも気候・風土・歴史、マナーも含めて人々の気持ちが違います。そのようななかで、日本人が長い間、調査・研究していけるかを調べるために、5人の学生と当時は専任講師であった川村先生とで、1966年にジェネラル・サーベイ（一般調査）を行いました（図1）。ジープを船で送り、私たちはタンカーにのってエジプトにいきました。

渡航前にアラビア語を少し勉強しましたが、



図1 ジェネラル・サーベイの1コマ

ほとんど通じませんでした。また、現地の人には、英語はまったく通じませんでした。

有名なメムノンの巨像の前で撮影したり、いろいろな寸法を計測したり、アレキサンドリアからアブ・シンベルまで2回にわたってジェネラル・サーベイを行い、調査・研究する意義もあり、自分たちでやれるという確信をもって帰国しました。

ちなみに、出国前に行った資金集めの一環として「サミー南へいく」というフィルムを借りて、大隈講堂で映画会を開催しました。結果は悲惨で100人ほどしか集まりませんでした。この映画のなかで、サミーという少年がメムノンの巨像の足下に寝転がって南アフリカへいく夢をみるシーンがありました。そうしたシーンを思い出したりしました。

### エジプト調査の開始期

いろいろな準備を経て1970年に許可をいただき、文部省科学研究費補助金を申請して1971年から第1次調査を開始しました。

当初、川村先生がオリентとエジプトとのかかわりで研究するのであれば、先王朝期がよかろうと述べられました。現在、私のも